

八潮市の財務状況把握の結果概要

基本的考え方

- 財政融資資金の貸し手として償還確実性を確認する観点から、平成17年度より、地方公共団体の決算統計を利用して作成する行政キャッシュフロー計算書に基づき、ストック面を重視した4つの財務指標を算出し、財務状況把握を実施。平成24年度からは全地方公共団体を5年程度で一巡するようヒアリングを実施。
- 平成21年度実施分より、ヒアリングを実施したすべての地方公共団体に対し、財務状況把握の結果を分かりやすく示す「診断表」を交付し、財務の健全化に向けた貸し手としてのアドバイス(情報提供)を実施。

診断表の概要

平成26年度地方財政状況調査表等を基に行政キャッシュフロー計算書を作成し、財務上の問題点を分析した結果の概要は以下のとおり。

1. 現状

○ 債務償還能力について

実質債務月収倍率が低いことから償還すべき債務の大きさに問題がなく、また、行政経常収支率が高いことから償還原資の獲得状況に問題はない。

よって債務償還能力について留意すべき状況にはないと考えられる。

財務指標及び財務上の問題点

区 分	平成26年度	計画最終年度(-)	単独基準	複合基準
債務償還可能年数	9.1年	-		15年
実質債務月収倍率	13.4月	-	24月	18月
積立金等月収倍率	1.6月	-	1月	3月
行政経常収支率	12.2%	-	0%	10%
債務系統	○	-		
積立系統	○	-		
収支系統	○	-		

○ 資金繰り状況について

積立金等月収倍率がやや低いものの行政経常収支率が高いことから資金繰り余力に問題がなく、また、経常的な資金繰りに問題はない。

よって資金繰り状況について留意すべき状況にはないと考えられる。

(平成26年度)	
普通会計地方債残高	27,530百万円
うち財政融資資金	14,206百万円

当座比率

	平成26年度
現金預金(A)	2,300百万円
流動負債(B)	2,748百万円
当座比率(A/B)	83.7%

現金預金＝歳計現金＋財政調整基金＋減債基金
流動負債＝地方債翌年度償還予定額＋翌年度繰上充用金

2. 今後の見通し

○ 4指標値(債務償還可能年数、実質債務月収倍率、積立金等月収倍率、行政経常収支率)の見通しを判断することはできないが、ヒアリングによる見通しは下記のとおり。

- ・ 地方債現在高は減少する見通しであり、積立金等残高は増加する見通しであることから、実質債務は減少する見通しである。
- ・ 行政経常収入及び行政経常支出は共に増加する見通しであるものの、行政経常支出の増加幅が行政経常収入の増加幅を上回る見通しであることから、行政経常収支は減少する見通しである。

3. 総評

貴市は地方税や地方交付税の増加に加え、行政評価の実施や、平成23年度～平成27年度を計画期間とする「第4次八潮市行政改革大綱・実施計画」を策定し財政健全化の観点を踏まえた行政改革の推進に取り組んできたこともあり、平成23年度以降財務上の問題には該当していない。

しかしながら、八潮南部東一体型特定土地区画整理事業をはじめ市内各所において実施している区画整理事業に対する財政負担が高んでいること等から、積立金等月収倍率が3.0月未満、当座比率が100%未満の状況が続いており、本質的には恒常的に資金繰りが繁忙となっている状況が続いている。

また、つくばエクスプレスの八潮駅が平成17年に開業したことによる周辺地区の市街地開発の進行等により、当面は地方税収の増加が期待できるものの、物件費・扶助費・繰出金等の支出が増加することによる行政経常収支の悪化も想定されるところであり、加えて今後公共施設老朽化に伴う建替え・改修に係る費用の増加が見込まれることから、債務償還能力及び資金繰り状況への影響が懸念される。

このため、財政の健全性を確保する観点からも、収支計画を策定し、将来の財政負担を見据えた計画的で適切な財政運営を進めていくことが期待される。